



1

オナガガモ

ふゆ あいだ にほん かくち
冬の間を日本ですごすために、各地の
みずうみ いけ かわ ひがた
湖や池、川、干潟などにやってきます。
その名のとおり、オスは尾が長いので
すが、メスはオスほど長くありません。
エサをとるときは、水に頭をつっこんで、
まるで逆立ちしているような姿で、水底
にある水草の葉・根などを食べます。



エサをとるオナガガモ

2

ふゆどり
冬鳥

にほん きた ちほう はんしよく あき にほん
日本より北の地方で繁殖し、秋に日本に
やってきて冬をすごし、春にふたたび北へ
かえ わた どり ふゆどり
帰っていく渡り鳥を、冬鳥といいます。
ジョウビタキは、町中でも見られる冬鳥で、
おお 大きさはスズメくらい、オレンジ色の
なか お腹と、つばさの白いもようが特徴です。
「ヒッヒッ」と甲高い声で鳴き、なわばりを主張します。



ジョウビタキ オス



ジョウビタキ メス

3

ゴマダラチョウ

むし せいちゅう そうちゅう たまご
虫たちは、成虫、サナギ、幼虫、卵など、
いろいろな形で冬を越しますが、ゴマダ
らチョウは、幼虫の形で冬を越す虫の
ひとつです。

ゴマダラチョウの幼虫は、冬の間エノキ
などの落ち葉のうらにくっついて、じっと
しています。春にエノキの新芽が出てくると、
木のぼ あたら は た
木に登って新しい葉を食べ、やがてサナギに
なつこるせいちゅう
なり、5月頃成虫になります。



ゴマダラチョウの幼虫



ゴマダラチョウ